

～ Program ～

I シューベルト歌曲集

- 1, 「別れ」 (Abschied D475)
- 2, 「秋」 (Herbst D945)
- 3, 「白鳥の歌」 (Schwanengezang D744)
- 4, 「夜曲」 (Nachtstück)

『白鳥の歌』 *Schwanengesang* D957/965a

II レルシュタープの詩による歌曲

(7 Lieder nach Gedichten von Ludwig Rellstab)

- 第1曲 「愛の使い」 (Liebesbotschaft)
- 第2曲 「兵士の予感」 (Kriegers Ahnung)
- 第3曲 「春の憧れ」 (Frühlingssehnsucht)
- 第4曲 「セレナーデ」 (Ständchen)
- 第5曲 「住处」 (Aufenthalt)
- 第6曲 「遠い地にて」 (In der Ferne)
- 第7曲 「別れ」 (Abschied)

III ハイネの詩による歌曲

(6 Lieder nach Gedichten von Heinrich Heine)

- 第8曲 「アトラス」 (Der Atlas)
- 第9曲 「君の肖像/彼女の肖像」 (Ihr Bild)
- 第10曲 「漁師の娘」 (Das Fischermädchen)
- 第11曲 「街」 (Die Stadt)
- 第12曲 「海辺にて」 (Am Meer)
- 第13曲 「影法師」 (Der Doppelgänger)

ザイドルの詩による歌曲

(Ein Lied nach Gedichte von Johann Gabriel Seidl)

- 第14曲 「鳩の便り」 (Die Taubenpost) (D.965A)

松山 優香 まつやま・ゆか ピアノ

ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院首席卒業。ピアノを手塚敏子、日高正枝、ゲルハルト・ベルゲ、ヤン・ホラーク、エリック・ハイド、シュック、ハリーナ＝チェルニー・ステファンスカの各氏に、「デュオの為のリート」におけるピアノ奏法を白井光子、ハルトムート・ヘルの両氏に師事。

ソロ、室内楽等でドイツをはじめ、ヨーロッパ各地で数多くの演奏会に出演。

リートピアニストとしては、世界的女流歌手エレナ・オブラストワ女史との共演をはじめ、シュテファン・ゲンツ氏等、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウの後継者と呼ばれる歌手らと次々に共演、話題を集めた。

1998年よりドイツの新進バリトン歌手ウルリッヒ・ヴアント氏とリート・デュオを組み定期的に演奏活動を行う傍ら、これまでにエリザベート・シュヴァルツコプフ、ジェラルド・スゼー、ローラント・ヘルマン各氏の助手も務めている。

SBC音楽祭特別伴奏者賞受賞。ミュンヘン国際音楽コンクール公式伴奏者。

2000年に行われたセニガリア国際ピアノコンクール（イタリア）では、日本を代表する審査員として招聘されている。

2004年ドイツノベルリン本拠地にて、ベルリンフィルメンバーと共演、好評を博した。

2008年ルーマニア国際音楽祭招聘アーティスト。

2011年ベルリン、ケルン他で行われた日独交流 150周年記念演奏会に招聘される。

東京二期会ピアニスト

揚妻 広隆 あげつま・ひろたか 内科医・歌手

愛知県立岡崎高校卒業。在学中同校コーラス部指揮者にて活躍。名古屋大学医学部在学中からソロ活動を行う。声楽を故広江吉信氏に師事、公開レッスンにて鮫島有美子氏の指導を受ける。2004年「国際アントロポゾフィー医学セミナー」で浅田豊氏と出逢って以来、シューベルトにハマっている。以来、浅田氏とはシューベルトティアードを毎年続け、今年で13年目のコンサートを10月に八ヶ岳(10/28)、11月に豊田(11/3)そして横浜(11/11)で行う予定。声が続く限り、続けるつもりでいる。2011年から松山さんとリートデュオを開始し今年で6年目になる。シューベルト「冬の旅」に始まり、シューマン、ブラームス、R. ショトラウスにも取り組んでいる。松山さんとは2013.2立川で「冬の旅」全曲演奏を行い好評を得、2013.12第2回演奏成功、立川の「冬の旅」は10年間続ける予定。

「あげつまクリニック」院長。循環器専門医。アントロポゾフィー認定医取得。医療の実践という仕事の傍ら演奏活動を続け、うたうことで自らが癒されている。

日本アントロポゾフィー 医学の医師会 理事 うめの森ヴァルドルフこども園 園医